



両中四季



令和8年3月4日 第12号



式辞（抜粋）

15名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんは、この3年間、確かな成長の足跡を、この学び舎に残してくれました。特に今年度は、生徒会スローガンに「協心戮力（きょうしんりくりょく）」を掲げ、全校生徒のこころと力を一つにするために、熱意あふれるリーダーシップを発揮してくれました。

互いの限界を認め合い、勝敗を超えて力を尽くした運動会。仲間が勝利すれば我がことのように歓喜し、負ければともに涙する。そこには、一人では決して味わうことができない心の交流、「協心」が確かにありました。また、ふたかわ祭ステージ発表では、豊かな個性と異なる才能が互いに響き合い、融合することで、学校全体がかつてない熱気に包まれました。見るものに笑顔と感動、そして一体感を与えたステージ発表は、多様性を力へと昇華させた、まさに「戮力」の姿でした。

こうした行事などで力強いリーダーシップを発揮できた土台にあったのは、幼い頃からともに学んできた「揺るぎない人間関係」です。幼少期から同じ景色を見つめ、ともに笑い、時にはぶつかり合いながら紡いできた絆は、単なる仲の良さを超え、皆さん自身の根底を支える力となりました。互いを認め、心から信頼できる仲間がいたからこそ、日々の学校生活に誠実に向き合い、理想の自分へと歩みを進め、地域に誇る学校風土を築き上げることができたのです。卒業生の皆さん、本当によく頑張りました。



さて、そんな皆さんに、はなむけとして【克己心】という言葉をご贈りします。この言葉は、論語の「克己復礼（こっきふくれい）」に由来します。自らの弱さや私欲に打ち克ち、正しい道に立ち返ること。すなわち、自分を律し、より高い志へと向かおうとする心です。これから皆さんが進む道は、決して平坦ではありません。

努力よりも安易な選択が魅力的に見える時。

怒りや焦りが心を揺さぶる時。

「もう十分だ」と、自分を甘やかしたくなる時。

そのような時、皆さんの進むべき方向を示す羅針盤になるのが、【克己心】です。

【克己心】とは、他人に勝つ力ではありません。自分の弱さと向き合い、それを乗り越えようとする、内なる勇気です。誰にも見えないところで踏みとどまる強さです。その強さこそが、人としての人格を磨き、やがて揺るがぬ信頼となっていくのです。



振り返れば、皆さんはすでに幾度となく、自分に打ち克ってきました。

学習や部活動での苦しい経験。

思うようにいかなかった挑戦。

友との葛藤や進路への不安。

学校に気持ちが向かなかった日も、一度や二度ではなかったことでしょう。

しかし、その一つ一つを乗り越えてきたからこそ、今、晴れやかなこの日を迎えているのです。ステージから見る皆さんの表情から、凜とした力強さと自信が伝わってきます。皆さんの中には、確かに【克己心】が育っています。どうか忘れないでください。人生を支えるのは才能でも環境でもありません。自分の人生を豊かに切り拓いていくのは【克己心】であることを。

さて、卒業生保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。とりわけ、思春期のこの3年間は、親として、戸惑いや葛藤を感じられることが多かったことでしょう。それでもなお、お子様を信じ、支え、見守り続けてこられたことに、心より敬意と感謝を申し上げます。お子様はこの3年間、目に見える成長以上に、目には見えない「心の力」をしっかりと育みました。どうかこれからも、その内なる強さを信じ、温かく見守っていただければ幸いです。

最後に卒業生の皆さん。これから人生の歩みの中で、迷いの場面に立った時、自分の胸に問いかけてください。「私は自分に打ち克てるか」と。その問いに「はい」と答え続ける限り、皆さんの未来は、必ず拓けます。



克己心を胸に、誇り高く、しなやかに、そしてたくましく。

このふたかわの空の下で育った15名の若人が、それぞれの大空へと羽ばたいていくことを、私たちは誇りに思います。皆さんの前途に、限りない祝福と光あふれる未来があることを心より祈念して、式辞といたします。